

R4開始

くろいし

黒石市(青森県)

主な品目

- 水稲
- ◆ 豆類 (大豆)
- ★ その他 (そば)



実施体制

くろいし有機農業推進協議会(黒石市、青森県、JA津軽みらい、青森県産業技術センター、金融機関、教育機関、農業者)

面積情報

有機農業取組面積:30.1ha
 耕地面積に占める割合:0.9%
 (令和5年度時点)

1 背景・課題

黒石市では、水稲や果樹、高冷地野菜を主体とした農業が展開されている。全国的に「安全」「安心」「美味しい」農産物の需要が高まってきていることもあり、SDGsの理念の元、有機農産物の生産に取り組むこととなった。有機農業を推進するにあたっては、飲食店等の販路開拓や、市内での有機農産物の消費拡大が課題となっている。

2 成果目標

有機農業の取組面積の拡大(有機JAS認証面積)
 R4年度 4.6ha → R9年度 40ha
有機農業に取り組む農業者数の増加
 R4年度 1人 → R9年度 20人
学校給食での有機農産物の導入回数
 R4年度 2回 → R9年度 全量化(米)

3 主な取組内容

生産

- 有機JAS認証制度に関する講習会等の開催
- 青森県産業技術センターと連携したブランド米の有機栽培技術の確立に向けた検証

加工・流通・消費

- 市内小学校(4校)の学校給食への有機農産物(米、ミニトマト)の試験的導入



有機JAS認証の取得に向けた取組方法等について農業者向けのセミナーを開催した。



市内小学校を対象として、学校給食へ有機農産物を提供し、有機農業への理解醸成を図った。



青森県産業技術センターと連携し、市ブランド米の有機栽培マニュアルの策定を行った。

4 これまでの成果

市内小学校(4校)の学校給食に有機農産物を試験的に導入することにより、消費者の有機農産物への理解醸成を図った。令和6年度は計19回学校給食へ有機農産物を導入した。

【有機給食の実施回数】

有機米 : R4年度 2回 → R6年度 16回
 有機ミニトマト : R4年度 0回 → R6年度 3回

5 今後の展望

今後、有機農業を普及していくためには、有機農産物の安定生産や農業者の所得安定が課題となる。そのため、令和6年度に作成した栽培マニュアルを活用して農業者へ栽培技術を普及することや、有機農業者の所得向上に向け、水稲だけではなく、高冷地野菜等多くの品目を有機化することで付加価値をつける取組を行う。

問い合わせ先

黒石市農林課 TEL:0172-52-2111(内線653)